

ネギの苗床消毒にNCS

ネギの苗床消毒については、臭化メチル剤の登録はありません。また、二〇〇五年には全廃することが決定しています。そこで、登録薬剤の特徴について紹介します。

一 代替薬剤

(一) クロルピクリン剤

① クロピクテープ

クロルピクリンをガス密閉効果の高い水溶性フィルムに封入したテープ状の製剤。テープを土壌表面に置き、ポリエチレン等で被覆するだけなので、作業が簡易です。

② クロルピクリン錠剤

クロルピクリンを錠剤化し、水溶性フィルムで包装した製剤。地下一五cmに施用し覆土後、マルチなどで被覆します。

この二剤はクロルピクリン剤でも油剤と異なり、急激なガス化が行われなため作業者の安全性が確保されるメリットがあります。

③ クロールピクリン

液剤であるため土壌へ注入後、速やかに被覆を行わないとガス化し、作業員や周辺農作物等に被害

を及ぼすおそれがあるため、取り扱いには注意が必要です。

土壌注入とマルチ被覆が同時に行なえる機械を使用することで、安全性が高まります。

(二) ダゾメット剤

(ガスタード微粒剤・バスアミド微粒剤)

微粒剤であるため、土壌に散布しやすい。散布後ロータリーなどで土壌混和後、ビニールなどで被覆します。急激なガス化はしないので、比較的安全性が高い薬剤です。

(三) NCS (カーバム剤)

液剤のため、土壌に散布後速やかにビニール等で被覆する必要がありますが、「普通物」「魚毒性A類相当」で、安全性が高い薬剤です。

二 土壌消毒に当たっての注意点

① 各薬剤とも、使用量・被覆期間・ガス抜き期間など、取り扱い説明書に従い安全に使用しましょう。また、被覆期間は地温によって異なりますので注意しましょう。

② 土壌処理剤は土壌の粉碎程度、水分量によって効果が左右されるので、適正な処理を心がけましょう。

③ ガス抜き後、ナタネ等の種子を

表 1

苗生育程度	ガスタード区	クロピク区
苗本数(/30cm)	27.5	29.0
葉枚数	4.1	4.2
最大葉長(cm)	32.4	37.3

表 2

雑草発生程度	ガスタード区	クロピク区
雑草個体数	13	11
乾燥重量(g)	7.1	2.6

三 実証ほの結果

試し播きし、発芽を確認しましょう。

普及部では、藤沢支店野菜部会、深谷市園芸協会の協力を得て、ガスタード微粒剤(慣行区)とクロルピクリン錠剤(試験区)の苗床消毒の実証ほを設けましたので、その結果をお知らせします。

① 耕種概要

土壌処理・被覆三月五日、被覆除去四月十日、は種四月二十日、調査六月十四日

② 苗生育程度

表1の通り。試験区の方が、生育は良好であった。

③ 雑草発生程度

表2の通り。乾燥重量に差があるのは、発生した種類が異なるた

めで、発生程度に両区の差はないと思われる。

④ 病害虫発生程度

両区ともに発生は見られなかった。

⑤ 結果

ガスタード微粒剤(慣行区)とクロルピクリン錠剤(試験区)の効果比較を行った結果、雑草・病害虫発生程度には差は見られなかったが、ネギ苗の生育は試験区の方が良好であった。

これらのことから、クロルピクリン錠剤は従来の土壌消毒方法と比べて、同等以上の効果があるものと思われる。



右:ガスタード区(慣行区) 左:クロピク区(試験区)